科目名	導入教育	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Orientation	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	集中講義、火曜日/6.7限：対面

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	日本医歯薬専門学校の学生生活を円滑にスタートさせるための知識やスキルを身に着ける。
科目概要	専門学習に臨むにあたり、能動的学習の基礎および汎用的技能を身につける。
到達目標	日本医歯薬専門学校での学則、学校生活ルールについて理解できる。 Teamsを利用したオンライン授業の受講方法や資料の閲覧、保存方法、課題の提出方法を理解できる。 効果的な学習方法や試験のルールを理解することで学習へのモチベーションを維持・向上できる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	入学前から始める！歯科衛生士の基礎知識	事前事後学習とその内容	新入生オリエンテーションにて配布された各種配布物は保存・整理し、学校生活の手引きとして活用できるように管理すること。
参考図書			
特記事項	授業の詳細な指示は随時担任の指示を受ける。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	授業を受けるための準備を整える①	演習	Teamsについて ・アカウント管理 ・授業ツールとしての使用方法
2	授業を受けるための準備を整える②	演習	Teamsの実践 ・オンライン授業の受講方法、授業資料の閲覧と保存方法 ・小テストの実施方法、課題の提出方法
3	学校生活を安心して過ごすために①	演習	学生便覧の読み合わせ
4	学校生活を安心して過ごすために②	演習	1年生で学ぶ科目の内容やスケジュールの確認
5	学習するための準備を整える①	演習	学習へのモチベーションの持ち方
6	学習するための準備を整える②	演習	学習能力チェック
7	学習するための準備を整える③	演習	効果的な勉強方法について ・授業内容が理解できる授業の受け方 ・小テストの解答解説の仕方(復習方法)
8	中間テスト	演習	筆記試験
9	学校生活をより楽しく過ごすために①	演習	クラスメイトとのコミュニケーションプログラム
10	学校生活をより楽しく過ごすために②	演習	夢を叶えるために必要なことを考える
11	学校生活をより楽しく過ごすために③	演習	夢を叶えるために必要なことを考える
12	学校生活をより楽しく過ごすために④	演習	これからの1年間について考える
13	学習の成果を確認するために①	演習	単位を修得するための方法について 定期試験のルールについて 成績簿の見方について
14	学習の成果を確認するために②	演習	定期試験に向けての振り返り
15	定期試験		筆記試験

科目名	コミュニケーションスキルアップ検定	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	花澤　真里子
		授業形態	演習		有		
（英）	Communication　skill up　certificate	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	集中講義、木曜日/1・2限：対面

講師紹介	保有資格：2級キャリアコンサルティング技能士、メンタルヘルスマネジメント　ラインⅡ種、AFP 国際線客室乗務員30年の経験を活かしたビジネスマナー、コミュニケーションを中心とした研修が得意である。JALでの客室訓練部教官経験を活かしJAL退職後の講師経験は14年以上で豊富な実務経験を有する。キャリアコンサルタントの資格を活かし、歯科医院での患者様対応研修、コミュニケーション研修、キャリアガイダンスや研修後のカウンセリング実績がある。
目的	歯科衛生士としてだけでなく、社会人として通用するコミュニケーション力を身に付ける
科目概要	①コミュニケーション力②基本的スキル③自己表現スキル④社会的スキル⑤サービスマインド　のスキルを付ける
到達目標	・コミュニケーションとは具体的に何かを理解し、その手法を身に付ける。 ・コミュニケーションスキルを上げるベースには、マナーのスキルが必要だという事を理解し行動できるようになる。 ・社会人基礎力が何であるかを理解し、高める。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	コミュニケーションスキルアップ検定	事前事後学習とその内容	各授業終了後に、翌日からの「行動目標」を考えていただく。
参考図書			
特記事項	必要に応じて、パワーポイント資料を作成し使用する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションの定義 マナーとは	演習	自己紹介 コミュニケーションとマナーの関係 学校への電話のかけ方
2	第一印象を徹底的に上げる マナーの5原則 バーバルとノンバーバル	演習	1対1の会話 「話す」の基本
3	チームビルディング演習①	演習	コミュニケーションにおいての「安心」について
4	チームビルディング演習②	演習	チームへの働きかけ 協働をする
5	言葉遣い 頼み方・断り方	演習	実習・就職時に役立つ言葉遣い
6	話す・伝えるの手法	演習	報連相
7	電話対応 ビジネスメールの書き方	演習	基本を知り、ワークで身につける
8	定期試験		筆記試験

科目名	情報処理	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	堀越　千恵美
		授業形態	講義		有		
（英）	Information Processing	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	火曜日/1.2限対面

講師紹介	滋慶学園グループのグループ企業(株)ブレーンスタッフコンサルタンツに所属しているラーニングマネージャーが、 卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化したオリジナルのe-learning（インターネット上のテキスト）を使用
目的	基礎的なネットリテラシー、画像編集、動画作成を学び、就職後に役立つSNSスキルを習得する
科目概要	Canvaを利用して簡単な画像や動画の編集ができるようになる。
到達目標	・Canvaのアプリを活用して、画像編集、動画作成ができる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	オリジナルのe-learningテキストを使用	事前事後学習とその内容	準備物として、動画や写真を撮影してくる必要がある際には 必ず準備をしてくること
参考図書			
特記事項	動画を見ながら、iPadやスマホの操作を行うため、 自宅受講の場合は動画視聴用端末と操作用の端末を整える必要がある		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	演習	情報リテラシー、滋慶学園グループのIT理解度テスト
2	DXリテラシーを学習する	演習	DXリテラシー、内容をレポートにまとめる
3	検索力を身につけ問題を解決できるようになる	演習	検索ツールの使い分け・効果的な検索方法、生成AI利活用にあたってのガイドライン・注意事項
4	Jimdoを使ってホームページの作成を体験する	演習	ホームページ作成
5	Canvaアプリ取得+Canva画像加工	演習	Canvaのアプリを取得し、動画のサムネイルを作成できる
6	Canvaを使って動画を作成する	演習	動画を作成方法＋字幕の効果的なつけ方について学習する
7	Canvaを使って動画を作成する	演習	音楽の効果とリテラシー
8	定期試験	演習	実技試験・指定された動画を作製し提出する

科目名	生物・化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	柴田　潔
		授業形態	講義		有		
（英）	Biology ・ Chemistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	水曜日/1・2限：対面

講師紹介	元日本歯科大学・東京短期大学教授。薬学部大学院を卒業後、日本歯科大学に奉職し抗腫瘍抗生物質の開発研究など、豊富な実務経験を有する。学部講義では、歯科医療の現場で歯科医師、歯科衛生士に必要な生物・化学の知識を中心に授業を実施。
目的	歯科衛生士の職務は、人に対する業務で心遣いなどが重要になりますが、それは医療人としての知識が身についていなければ発揮できない。そのためには、自然科学 （数学・生物・化学）に関する分野を学習しながら歯科衛生士に必要な基礎知識を身に着ける。
科目概要	歯科専門科目を無理なく理解できる高等学校低学年程度の生物・化学の基礎知識の修得
到達目標	これまでに中学・高校で学んだ生物・化学の基本知識を再確認すると共に歯科衛生士として必要な生化学、薬理学や理工学などの専門基礎科目を学ぶための基礎となるステップアップした知識を身に着ける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『楽しくわかる　生物・化学・物理』 羊土社	事前事後学習とその内容	講義前：授業のコマシラバスをチェックし、講義の進行を把握する。 講義後：授業の講義内容を復習して重要事項（到達目標）を達成できたかチェックする。
参考図書	歯科衛生学シリーズ　化学　医歯薬出版		
特記事項	プリント（PowerPointのスライド） をオンライン配布		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ユニット1　生物：細胞の構造と器官の働き	講義	・動物の細胞と植物の細胞の違い ・細胞内の各器官の名称と役割 ・細胞膜の構造と働き
2	ユニット2　生物：生物体を構成する物質	講義	・タンパク質 ・脂質 ・糖質
3	ユニット3　生物：セントラルドグマ（遺伝情報）	講義	・DNAの情報をもとにタンパク質を生成する過程（セントラルドグマ）
4	ユニット4　生物：生体とエネルギー	講義	・ミトコンドリアの働き ・ATP ・TCAサイクル/電子伝達系
5	ユニット5　化学：物質の成り立ち	講義	・元素記号 ・元素表の値を利用した原子量や分子量の求め方 ・化学式
6	ユニット6　化学：濃度計算	講義	・重量パーセント ・容量パーセント ・フッ素塗布剤のフッ素濃度
7	ユニット7　化学：酸性・アルカリ性	講義	・生体各部や体液のpH ・pH の値と酸性・アルカリ性 ・ステファン曲線
8	定期試験		筆記試験

科目名	解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	中村　雅典
		授業形態	講義		有		
（英）	Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日/1・2限：対面

講師紹介	東北大学歯科病院で豊富な実務経験を有する。昭和56年東北大学歯学部卒業。昭和60年東北大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）。昭和60-62年南カリフォルニア大学留学。昭和60―平成5年東北大学歯学部・医学部助教。平成8年東北大学大学院医学系研究科准教授。平成13年一令和2年昭和大学教授（歯学部口腔解剖学講座）。現在 昭和大学客員教授、日本歯科大学客員教授。
目的	正常な人体の構造を理解することは、疾患等の異常を知るための基本的知識です。本コースでは、歯科衛生士として必要な人体を構成する器官系の基本的構成を習得する。
科目概要	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識の習得を目指す。歯科衛生士として必要な人体の正常構造の基本を理解する。
到達目標	歯科衛生士として必要な人体の正常な細胞、組織と器官系の構造、ならびに人体の発生を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能1　医歯薬出版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する知識確認項目ならびに小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学総論	講義	解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。
2	細胞の基本構造	講義	細胞の中にある基本的構造（細胞内小器官）と機能、ならびに細胞分裂について理解する。
3	組織の分類	講義	身体を構成する4つの組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）の構造と機能を理解する。
4	個体発生	講義	精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。
5	骨系	講義	身体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。
6	筋系	講義	筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。
7	脈管系	講義	脈管系の基本的な構造と機能を理解し、全身の血管系の名称を理解する。
8	中間テスト		1～7回目の内容について筆記試験を行う。
9	消化器系	講義	消化器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
10	呼吸器系	講義	呼吸器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
11	泌尿生殖器系	講義	泌尿器系及び生殖器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
12	内分泌器系	講義	内分泌器系に属する各器官の構造と機能を理解する。
13	中枢神経系	講義	神経系について、基本的機能形態を理解するとともに、中枢神経系の名称と機能を理解する。
14	末梢神経系/感覚器系	講義	末梢神経系（運動神経、感覚神経、自律神経）の違いを理解し、全身に分布する神経の名称を理解する。ならびに、感覚器の機能、形態及び名称を理解する。
15	定期試験		9～15回目の内容について筆記試験を行う。

科目名	生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	篠田　雅路
		授業形態	講義		有		
（英）	Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	月曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	歯学部卒業後、大学病院歯科口腔外科にて歯科診療に従事し豊富な実務経験を有する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事した。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。国内大学にて歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、臨床実地で必須な生理学の知識を教授する。
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために，全身の生理学について修得する。
科目概要	臨床実地で必須な生理学の知識
到達目標	歯科衛生士として必要な生体の正常な機能を理解するために、細胞の機能から個体の行動に至る各レベルにおける正常な働きとそのメカニズムを知る。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　）

教科書	歯科衛生士学シリーズ　人体の構造と機能1	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	基礎歯科生理学　第7版		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞機能と体液	講義	生体恒常性を維持することの意義 細胞内液と細胞外液の組成の違い 体液浸透圧と酸塩基平衡
2	神経	講義	神経の基本的構造と機能 神経の情報伝達機構
3	感覚・運動	講義	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の定義とその分類 興奮収縮連関
4	血液・循環	講義	血液の組成と量 止血のメカニズム 循環調節機構
5	内分泌	講義	ホルモンの種類とその作用
6	消化・吸収・排泄	講義	消化・吸収・排泄に関連する生理機能と神経回路
7	呼吸・自律神経	講義	呼吸の神経調節機序 呼吸の化学的調節機序 異常呼吸
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	栄養生化学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	有川　量崇
		授業形態	講義		有		
（英）	nutritional biochemistry	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	火曜日/1・2限：対面

講師紹介	歯科医師，博士（歯学）として，大学にて豊富な実務経験を有する。現在、日本大学松戸歯学部衛生学講座に所属し，講義，研究に携わっている。また，女子栄養大学栄養科学研究所客員教授としても研究に携わっている。講義は，3名（有川量崇，鈴木陽香，長島輝明）で行う。鈴木は，歯科衛生士資格があり，長島は歯科医師として日本大学松戸歯学部に所属し，講義，研究に携わっている。
目的	口腔は食物の入口であり、食品はう蝕、歯周病という口腔疾患と深く関係する。口腔の健康を維持・増進する役割を担う歯科衛生士にとって、生化学による生命現象の理解と生化学を理解し，栄養学を学ぶ。
科目概要	生化学の基礎を学び、生命現象を生化学的に理解したうえで、栄養学の基礎を学び、生化学で学んだ知識や考え方を応用し栄養学を理解する。
到達目標	生命科学領域に関わる基本的知識を修得した上で、口腔が身体の一器官という認識の上に立ち、医学的見地から歯科衛生士として必要な口腔領域の生化学知識を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学　医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	事前学習においては、当該予定の教科書を読むこと。事後学習では、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	人体の構造と機能3　栄養　医歯薬出版株式会社		
特記事項	講義および提示資料について写真撮影及び録音録画はその必要のある時に許可を得るようにしていただきたい。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯と歯周組織の生化学Ⅰ	講義	1. 歯と歯周組織 2. 結合組織 3. 結合組織を構成する細胞
2	歯と歯周組織の生化学Ⅱ	講義	1. 歯の無機成分 2. 歯の有機成分
3	硬組織の生化学	講義	1. 歯と骨の石灰化 2. 血清カルシウム調節 3. 歯の脱灰と再石灰化
4	唾液の生化学	講義	1. 唾液中の無機質・有機質 2. 唾液中の無機質の作用 3. 唾液中の有機質の作用
5	プラークの生化学Ⅰ	講義	1. プラークの形成過程 2. ステファンカーブ 3. プラークによるう蝕発症機構
6	プラークの生化学Ⅱ	講義	1. 食生活 2. う蝕予防方法
7	プラークの生化学Ⅲ	講義	1. 歯周疾患発症機構
8	中間テスト プラークの生化学Ⅳ		1. 授業　1～7　回までのまとめ　（MCQ試験） 2. 講義　口臭
9	栄養素の基礎知識Ⅰ	講義	1. 食生活と栄養 2. 栄養素の消化・吸収
10	食事摂取基準	講義	1. 食べ物のエネルギー 2. 基礎代謝 3. 食事摂取基準
11	栄養素の働きⅠ	講義	1. 糖質の栄養的意味 ①糖質の種類 ②糖質の働き
12	栄養素の働きⅡ	講義	1. タンパク質の栄養的意味 ①タンパク質の種類 ②タンパク質の働き
13	栄養の働きⅢ	講義	1. 脂質の栄養的意味 ①脂質の種類 ②脂質の働き
14	食生活と食品	講義	1. 国民の健康と栄養の現状 2. 国民の健康づくりにおける食生活改善の取組み
15	定期試験		MCQ試験 1. 授業　8～14　回までのまとめ（8割）　1～7回までのまとめ（2割）

科目名	歯牙解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	野中　直子
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Anatomy	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	火曜日/1・2限：対面

講師紹介	昭和大学歯学部口腔解剖学講座・教授・学生部長 【専門分野】解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学 【保有資格】歯科医師免許・労働衛生コンサルタント。昭和大学歯学部卒業後は、昭和大学歯学部保存修復講座で診療に携わりながら、学生教育（講義・実習）を4年間担当し、その後は昭和大学大学院歯学研究科で口腔解剖学専攻。現在は解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学の講義・実習に携わり、豊富な実務経験を有する。
目的	歯科衛生士として必要な歯の形態学的特徴・機能学的意義を理解するとともに、ヒトの個々の歯を鑑別することができるようにする。
科目概要	歯の形態について、乳歯・永久歯のそれぞれの形態的特徴を理解し、臨床の場に繋げられる知識を身に付ける。
到達目標	歯科衛生士として臨床現場で必要となる歯の形態を理解することで、歯の表記法、歯の鑑別、配列と咬合、歯種別歯の形態、また歯の形態異常について理解する。また、この科目を通して学んだ知識をもとに、歯科医師と歯科衛生士とのコミュニケーションや歯科衛生士と患者さんとのコミュニケーションにも繋げるようにする。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯の解剖学（わかば出版）	事前事後学習とその内容	事前学習：その日の講義の部分を読んで予習してくる。 事後学習：歯の解剖学の章末についている「まとめ問題」と「自己学習のための図」を使用し復習し、わからないところはテキスト内で調べてみる。
参考図書	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）		
特記事項	顎模型使用		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の概論	講義	歯の解剖学入門、歯式、歯髄と歯髄腔などについて理解することができる。
2	永久歯（中切歯・側切歯・犬歯）	講義	上下顎前歯の形態学的特徴について理解することができる。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
3	永久歯（第一小臼歯・第二小臼歯）	講義	上下顎小臼歯の形態学特徴について理解できる。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
4	永久歯（上顎大臼歯）	講義	上顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。
5	永久歯（下顎大臼歯）	講義	顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
6	乳歯（乳前歯・乳臼歯）	講義	上下顎乳前歯・乳臼歯の形態学的特徴について理解する。乳歯の模型を使用し確認することで、乳歯の形態を理解することができる。また永久歯との違いを理解する。
7	歯の配列と咬合・歯の異常	講義	歯の配列と咬合を理解する。異常歯について理解する。1～6回のまとめ、質疑応答。
8	定期試験		筆記試験

科目名	口腔生理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	篠田　雅路
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Physiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	月曜日/1限：対面，2限：オンライン

講師紹介	歯学部卒業後、大学病院歯科口腔外科にて歯科診療に従事し豊富な実務経験を有する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事した。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。国内大学にて歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、臨床実地で必須な生理学の知識を教授する。
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために，咀嚼器官である顎顔面口腔領域の運動，感覚，自律機能について修得する。
科目概要	臨床実地で必須な口腔生理学の知識
到達目標	運動機能としては顎，舌，顔面の運動機構，感覚機能としては顎顔面口腔領域の体性感覚，味覚，嗅覚のメカニズム，さらに自律性機能である唾液の働きを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士学シリーズ　歯・口腔の構造と機能	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	基礎歯科生理学　第7版		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生理学の復習	講義	基本的な感覚生理学 基本的な運動生理学
2	歯と口腔の体性感覚	講義	口腔感覚の発現に関与する神経回路 歯髄感覚、歯根膜感覚および口腔顔面痛の受容機構
3	味覚・嗅覚	講義	味蕾を構成する細胞の種類と機能 味蕾の分布様式味受容体の種類とその特徴 味覚に関与する脳神経とその支配領域
4	咬合と顎運動	講義	末梢感覚の顎運動制御 顎運動発現に関与する神経回路
5	咀嚼・嚥下	講義	咀嚼・嚥下運動と咀嚼筋，顎関節，顔面筋などの協調 咀嚼・嚥下運動に関与する神経回路
6	吸啜・嘔吐・発声	講義	吸啜運動の意義 嘔吐動作および発生に関連する生理機能と神経回路
7	唾液	講義	唾液の生理作用 唾液の分泌機構と全身疾患との関連性
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科保健指導論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン 宮仁子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を持つ。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 （歯科衛生士教本）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	予防の概念とわが国の健康施策	演習	予防の概念（第一次予防～第三次予防） 健康推進施策（健康日本21）
2	歯科保健指導論で学ぶこと 保健行動支援のための基礎知識①	演習	歯科衛生士法における歯科保健指導論の位置づけ コミュニケーションスキル
3	保健行動支援のための基礎知識②	演習	行動変容に関する理論
4	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理①	演習	歯科衛生過程とは 患者からの情報収集
5	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理②	演習	全身の健康状態の把握 認知機能の把握 生活環境の把握 生活習慣の把握
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理③	演習	分析のためのデータ（口腔衛生状態の指数）
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理④	演習	分析のためのデータ（歯周疾患の指数）
8	中間テスト		1～7回の内容から筆記試験にて実施
9	口腔機能の基礎知識	演習	口腔機能とは 摂食・嚥下機能
10	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理⑤	演習	口腔機能のアセスメント
11	口腔衛生管理①	演習	ブラッシング（歯ブラシ・ブラッシングの方法）
12	口腔衛生管理②	演習	その他の清掃法（フロッシング・歯間ブラシ・タフトブラシ）
13	口腔衛生管理③	演習	歯磨剤・洗口剤
14	口腔衛生管理④	演習	ブラッシング実習
15	定期試験		1～14回の内容から筆記試験にて実施

科目名	歯科予防処置論Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	金曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置を行うにあたり基礎的な知識理解する。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科予防処置の概要	演習	歯科予防処置の概念と内容を概説できる 歯科予防処置の法的位置づけを説明することができる 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる
2	口腔の基礎知識	演習	歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる
3	口腔内の付着物・沈着物	演習	口腔内の付着物、沈着物の種類と成分を説明できる プラークの形成過程と成分を説明できる 歯石の形成過程と成分を説明できる
4	う蝕について （分類・原因・プロセス）	演習	う蝕とは何かを説明することができる う蝕の原因・発生・進行について理解する う蝕の予防法について理解し、う蝕予防処置の応用方法を挙げることができる
5	歯周病の基礎知識について	演習	歯周病の原因・発生・進行を理解する 歯肉炎と歯周炎の違いを挙げることができる 歯周疾患が全身に与える影響について理解する
6	歯・歯周組織の検査　（口腔内診査）	演習	口腔内の観察項目とポイントを列挙できる 検査使用器具の使用目的、種類、基本操作、測定部位等を理解する
7	歯・歯周組織の検査　（プロービング）	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures TheoryⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1、2限目：対面

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的な歯・歯周組織の検査/スケーリングの知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習オリエンテーション	演習	5F・6F実習室の使用方法を理解する 実習時の身だしなみについて理解をする
2	歯・歯周組織の検査 （プロービング）	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
3・4	手用スケーラーについて	演習	手用スケーラーの種類と使用目的を説明できる 手用スケーラーの構成、把持、固定、手指の動かし方や操作方法を理解する
5・6	シックルタイプスケーラー マネキン実習　1	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎前歯部（唇側・舌側）のシックルタイプスケーラー操作
7・8	中間テスト シックルタイプスケーラー マネキン実習　2	演習	筆記試験 施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎前歯部（唇側・口蓋側）　シックルタイプスケーラー操作
9・10	シックルタイプスケーラー マネキン実習　3	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部舌側　　下顎左側臼歯部頬側　シックルタイプスケーラー操作
11・12	シックルタイプスケーラー マネキン実習　4	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部頬側　　下顎左側臼歯部舌側　シックルタイプスケーラー操作
13・14	シックルタイプスケーラー マネキン実習　5	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部頬側　　上顎左側臼歯部口蓋側　シックルタイプスケーラー操作
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論　Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅰ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	木曜日/1.2限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な基礎知識を習得する。
科目概要	歯科医療従事者として必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医療従事者として実践にいかせる為に必要な知識を学ぶ。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、小テストの見直し・復習をして知識の定着を行う
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療補助とは	演習	・歯科衛生士法における法的位置づけについて ・歯科衛生士の業務内容と歯科診療補助について ・他の医療職種についての診療補助業について
2	医療安全 インシデント報告	演習	・医療安全について ・医療事故や偶発事故発生時の対応法について ・リスクマネジメントについて ・法的責任について
3	環境整備	演習	・歯科診療室の環境、設備について ・歯科診療所における患者対応の基本 ・共同動作の概念について
4	院内感染 手指衛生	演習	・歯科診療における感染リスクや感染対策の分類 ・標準予防策について ・感染防護具について ・手指消毒について
5	院内感染予防法/防護具の装着	演習	・手指衛生の手技 ・防護具の着用 ・グローブフィッティング
6	消毒法/滅菌法	演習	・各種滅菌、消毒の方法について
7	ハイリスク患者 医療廃棄物	演習	・ハイリスク患者とは ・使用器具、器材の管理方法 ・医療廃棄物の概要と具体的な分類
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論　Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1・2限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	印象材の取り扱い①	演習	・印象材の特徴、種類、用途について ・ハイドロコロイド印象材の取り扱い方法について ・アルジネート印象材の練和と管理方法を習得する
3・4	印象材の取り扱い②	演習	・シリコンゴム印象材の取り扱い方法について ・シリコンゴム印象材の練和と管理方法を習得する ・印象採得とその対応方法について
5・6	模型材の取り扱い	演習	・模型材の種類と取り扱い方法について ・石膏の練和方法を習得する ・石膏の注入方法を習得する
7・8	中間テスト WAX・咬合採得	演習	・筆記試験 ・ワックスの特徴、種類、用途について ・咬合採得法を習得する
9・10	合着材①	演習	・合着材の特徴、種類、用途について ・リン酸亜鉛セメントの練和を習得する
11・12	合着材②	演習	・カルボキシレートセメントの練和を習得する ・グラスアイオノマーセメントの練和を習得する ・酸化亜鉛ユージノールセメントの練和を習得する
13・14	合着材③実技試験/歯科衛生材料	演習	・指定された歯科用セメントを適切に取り扱うことが出来る ・各種歯科衛生材料の作成方法について習得する
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科衛生士概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	松本　英美里
		授業形態	講義		有		
（英）	Outline of Dental Hygienist	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	金曜日/1限：オンライン、2限：対面

講師紹介	歯科衛生士として歯科病院、一般歯科、小児歯科にて豊富な実務経験を有する。2020年より歯科衛生士専任教員。
目的	歯科衛生士の業務を実践するために必要な考え方、医療倫理、医療安全管理およびチームアプローチに必要な基本的態度を理解し、関連する知識・技術・態度を身につけるための論理的な思考の基礎を習得する。
科目概要	歯科衛生士の歴史や役割、心構えについて学び、歯科衛生士の意義を理解する。
到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生学とは	講義	歯科衛生と健康 歯科衛生活動の対象 歯科衛生活動の領域
2	歯科衛生士の歴史/海外における歯科衛生士	講義	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生の背景 海外の歯科衛生士の現状
3	歯科衛生活動の理論	講義	予防の概念 歯科衛生士の考え方（科学的思考）
4	歯科衛生過程	講義	歯科衛生過程とは 以下衛生過程活用の利点 歯科衛生過程の流れ
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務	講義	歯科衛生士と歯科衛生士法 歯科衛生の役割 安全管理
6	歯科衛生士と医療倫理	講義	医の倫理と患者の権利 対象の自己決定権の尊重 インフォームド・コンセント
7	歯科衛生士の活動と組織	講義	歯科衛生活動の現状 歯科衛生士と組織
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科材料学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	広田　一男
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Materials	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	水曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	工学部大学院修士課程修了後、歯科器材メーカーにおいて歯科材料、歯科機械の研究開発に長年にわたって従事。研究開発の実務経験をベースにして歯科材料全般について十分な基本的知識がある。また、東京医科歯科大学歯学部、徳島大学歯学部などで非常勤講師として歯科材料学を教授し豊富な実務経験を有する。現在、鶴見大学非常勤講師。
目的	臨床で使用される歯科用材料についての基礎的な理解ができるようにする。それぞれの材料を臨床で使用する理由、材料の本質について基本から理解する。また、歯科材料は完成品をそのまま用いるのではなく、現場で練和等をおこなって臨床に適応することが多く、半製品の状態で供給される。使用時の操作が重要であり、その注意点も理解する。
科目概要	歯科材料の基本的特徴、使用目的を理解する。
到達目標	多くの種類の歯科材料が臨床で用いられている。医療を支えているのは薬であるが、歯科の診療行為を支えているのは材料ともいえる。診療行為と用いる歯科材料の関係を理解できるようにする。また、歯科材料は半製品として、練和など臨床応用する際の衛生士としての役割の大きい事も理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科材料の基礎（永末書店）	事前事後学習とその内容	事前学習として講義に先立ち、学習範囲の教科書を目を通すことが望ましい。事後学習としては講義終了後、重要事項について小テストを実施するので、理解不足の事項はさらに教科書や配付する資料で身に着けるように必ず復習する。
参考図書			
特記事項	なし		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科材料全般の分類 歯科材料の一般的所要性質 歯科材料の素材	講義	歯科材料には口腔内で使用される材料と口腔外で使用される材料がある 歯科材料は生体安全性が基本、その他の物性など所要性質について理解する。 歯科材料には有機材料、無機材料、金属材料など各種材料が使用されている。
2	印象材 模型用材料	講義	各種印象材（アルジネート印象材、シリコン印象材など）全般について。 石膏について理解する
3	合着・接着材	講義	リン酸亜鉛セメント、酸化亜鉛ユージノールセメント、カルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、接着性レジンセメントについて特徴を理解する。
4	歯冠修復材	講義	即時重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメントについて理解する。
5	仮封材 インプラント用材料、ホワイトニング用材料 ファイバーポスト用材料	講義	臨床で使用されている仮封材は多くの種類があるが、全般を理解する。 インプラントシステムやホワイトニングシステムの概略について理解する。 ファイバーポストを中心にコア形成の概略について全般を理解する。
6	セラミック材料 CAD/CAM 歯科用金属材料	講義	セラミック材料について理解する。 CAD/CAMシステムについて全体を理解する。 金属材料について理解する。
7	再生材料、骨補填材 矯正材料 予防用材料、	講義	骨補填材、再生材料について理解する。 矯正材料について包括的に理解する。 シーラント材を中心に予防用材料について理解する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	一般教養	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	講義		有		
（英）	Basic education	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	学年歴に記載

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。
科目概要	専門分野の学習を能動的に行うために必要な基礎知識を身に付ける。
到達目標	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	課題やレポートを都度提出し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	1年次の1年間を通して不定期にて実施をする 日程詳細は学年歴を参照		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会人・医療人としての身だしなみ	講義	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備 身だしなみについて
2	社会人・医療人としての身だしなみ	講義	臨地臨床実習への準備 事前挨拶・電話の仕方・訪問のルール・言葉使い・日程調整相談 身だしなみチェック（電話がけ開始）
3	敬語の使い分け・文章	講義	敬語・謙譲語・丁寧語の使い方 話し言葉と書き言葉 文章の書き方・考察の書き方
4	実習前教育①	講義	臨地臨床実習への準備 臨床実習時の留意点
5	実習前教育②	講義	臨地臨床実習への準備 実習ノートの取り扱い
6	実習前教育③	講義	臨地臨床実習への準備 決意表明・目標の清書
7	実習前教育④	講義	臨地臨床実習への身構え・気構え・心構えを整える 頭髪チェック 登院式について
8	定期試験		筆記試験

科目名	キャリアデザイン	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Career design	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	不定期のため学年歴にて確認をすること

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	キャリアデザインを通じ、自分の将来像を明確にする。
科目概要	コース選択や社会人の基礎となる臨地臨床実習に向けての知識とスキルを身に付ける。
到達目標	なりたい歯科衛生士像を明確にし、実現するための知識とスキルを身につける。 2年時のコース選択に向けて、コースに関わる業界について知る。 登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ。 臨地臨床実習の中間振り返りと実習ノートの書き方の確認ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	各授業での事前課題と振り返りのの課題に取り組み、 将来像を明確化させる。
参考図書			
特記事項	欠席した場合は後日振替の講義を受ける必要がある。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	後期スケジュールについて	演習	後期スケジュールの確認
2	臨床実習の概要	演習	臨床実習の目的や時期、規則について知る
3	業界コラボ授業	演習	2年時のコース選択に向けて総合コースに関わる業界について知る
4	業界コラボ授業	演習	2年時のコース選択に向けて審美コースに関わる業界について知る
5	歯科医療現場を知る	演習	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
6	歯科医療現場を知る	演習	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
7	登院式リハーサル	演習	登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ
8	定期試験		レポートにて実施

科目名	口腔解剖学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	中村　雅典
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Anatomy	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日/1限:オンライン、2限:対面

講師紹介	東北大学歯科病院で豊富な実務経験を有する。昭和56年東北大学歯学部卒業。昭和60年東北大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）。昭和60-62年南カリフォルニア大学留学。昭和60―平成5年東北大学歯学部・医学部助教。平成8年東北大学大学院医学系研究科准教授。平成13年一令和2年昭和大学教授（歯学部口腔解剖学講座）。現在 昭和大学客員教授、日本歯科大学客員教授。
目的	歯と歯周組織ならびに口腔を構成する構造を理解することは、歯科衛生士を含む歯科医療に従事するすべての職種に必要不可欠なことです。このユニットでは、解剖学的な構造だけでなく、ここで学ぶ知識が臨床でどのように役立つのか、また、全身との関連性を含めて講義を行う。
科目概要	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識の習得を目指す。歯科衛生士として必要な人体の歯、歯周組織ならびに口腔の基本を理解する。
到達目標	歯科衛生士として必要な口腔の基本的構造（歯，歯周組織を含む）ならびに顎顔面口腔の発生を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯・口腔の構造と機能　医歯薬出版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する知識確認項目ならびに小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	エナメル質	講義	エナメル質の特徴、構造について理解する。
2	象牙質・歯髄複合体	講義	象牙質、歯髄の特徴、構造について理解する。
3	歯周組織①	講義	セメント質、歯根膜、歯槽骨の特徴、構造について理解する。
4	歯周組織②/歯の発生①	講義	歯肉の特徴、構造について理解する。 歯胚の発生と構成する組織を理解する。
5	歯の発生②/歯の交換と萌出	講義	歯根の形成機序を理解する。 代生歯および加生歯の発生ならびに歯の萌出、脱落と交換について理解する。
6	顎顔面口腔の発生	講義	顎、顔面、口腔の発生過程を理解する。
7	口腔内臓	講義	口腔を構成する器官の種類とその構造を理解する。
8	中間テスト		1～6回目の講義内容について筆記試験を行う。
9	歯科領域で必要な骨①	講義	頭蓋骨の全体での構造、ならびに上顎骨・下顎骨の構造を理解する。
10	歯科領域で必要な骨②	講義	蝶形骨、側頭骨の構造を理解する。 翼口蓋窩と周囲との連絡を理解する。顎関節の構造を理解する。
11	歯科領域で必要な筋	講義	咀嚼筋、表情筋、舌骨上筋ならびに舌骨下筋の位置と働き（顎運動）を理解する。
12	歯科領域で必要な血管	講義	口腔領域に分布する血管（総頸動脈、内頸動脈、外頸動脈）の走行と分布を理解する。
13	歯科領域で必要な神経	講義	口腔領域に分布する脳神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経）と脊髄神経（頸神経）、自律神経）の走行と分布を理解する。
14	唾液腺/咽頭と喉頭の構造	講義	唾液腺の種類とその特性、神経支配を理解する。 咽頭と喉頭の構造の構造と嚥下に関する筋理解する。
15	定期試験		7回目以降の内容について筆記試験を行う。

科目名	病理学・口腔病理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	太田裕崇
		授業形態	講義		有		
（英）	Pathology/OralPathology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限：オンライン、2限：対面

講師紹介	日本大学歯学部卒業、日本大学大学院歯学研究科修了（歯科医師、博士（歯学））。2017～2020年 日本大学歯学部付属歯科病院病理診断科臨時専修医。2021年より昭和大学医学部臨床病理診断学講座助教。昭和大学病院や昭和大学藤が丘病院にて学生教育や病理診断に豊富な業務経験を有する。その他、都内歯科医院にて訪問歯科診療に従事している。
目的	病理学は病気の原因を研究する基礎医学と、病気の診断を行う臨床医学の両方を併せもつ学問である。病理診断は最終的な診断を下すという責任重大な業務で患者さんの予後に影響する。講義では病理診断で得られる知識が、治療とどのように関わっているか紹介する。病理学で学んだ知識を臨床で役立ててもらう事を目的とする。
科目概要	病気の基本的な成り立ちを学ぶ病理学と、口腔領域にみられる口腔病理学で構成している。
到達目標	①病理学で使われる専門用語を習得する ②口腔領域にみられる病態を系統立てて理解する ③病理検査の実施方法を理解する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士教本　病理学・口腔病理学	事前事後学習とその内容	毎回配布する講義資料は教科書の内容を系統立ててまとめている。講義ではそれぞれの内容についてどのように理解すべきかを教授する。講義内容を聞き漏らさず、資料の空欄に書き込み理解の向上に努めること。
参考図書			
特記事項	講義では実際の症例を多く供覧する。個人情報保護の為、撮影録画は禁止とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	病理学総論　1章　病理学序論と病因論 病理学総論　2章　遺伝性疾患と奇形 口腔病理学　11章　口腔領域の奇形	講義	病理学とは何か、病理における診断業務の重要性 遺伝性疾患と奇形（口腔領域も含む）について
2	病理学総論　3章　循環障害	講義	循環障害の概要
3	病理学総論　4章　代謝障害と退行性病変 病理学総論　5章　増殖と修復	講義	代謝障害と退行性病変について 進行性病変について
4	病理学総論　6章　炎症と免疫応答	講義	免疫応答異常と炎症の概略
5	病理学総論　6章　炎症と免疫応答 病理学総論　5章　増殖と修復	講義	炎症の機序と再生と修復までの流れ
6	病理学総論　7章　腫瘍	講義	腫瘍の定義 細胞診および組織診の取り扱い、検査の依頼から結果報告までの流れについて
7	口腔病理学　1章　歯の発育異常 口腔病理学　2章　歯の損傷と着色・付着物 口腔病理学　12章　口腔組織の加齢変化	講義	歯にみられる代表的な異常形態 歯の損傷や着色について 加齢に伴う口腔内の変化について
8	中間テスト（試験終了後解説＋講義）		中間テスト(筆記試験　第1回～7回から出題）試験終了後解説を行う
9	口腔病理学　3章　う蝕 口腔病理学　4章　象牙質・歯髄複合体の病態	講義	う蝕の発生機序と分類について 歯髄炎の発生機序と分類について
10	口腔病理学　5章　歯周組織の病態 口腔病理学　9章　顎骨の病変	講義	根尖性歯周炎と骨髄炎の機序について
11	口腔病理学　5章　歯周組織の病態	講義	歯肉炎と歯周炎の違いについて
12	口腔病理学　6章　口腔粘膜の病変 口腔病理学　7章　口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	口腔粘膜にみられる疾患 口腔領域にみられる嚢胞
13	口腔病理学　7章　口腔領域の嚢胞と腫瘍 口腔病理学　8章　口腔癌	講義	口腔領域にみられる良性腫瘍と悪性腫瘍
14	口腔病理学　9章　顎骨の病変 口腔病理学　10章　唾液腺の病変	講義	顎骨病変（良性腫瘍）と唾液腺病変（良性腫瘍と悪性腫瘍）
15	定期試験		筆記試験（第1回～14回全範囲から出題）

科目名	薬理学・歯科薬理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	今井　敏夫
		授業形態	講義		有		
（英）	Pharmacology /Dentistry Pharmacology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	前半：火曜日/1・2限：：対面 後半：火曜日/1限：対面、金曜日/2限：対面

講師紹介	薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な薬理学・歯科薬理学を講義し豊富な実務経験を有する。日本歯科大学名誉教授、専門分野：生理学、衛生学、薬理学。研究分野：フッ化物と骨代謝メカニズムの解明、口臭原因物質による歯周疾患発生メカニズム。
目的	歯科衛生士が歯科保健・歯科医療に携わる保健・医療チームの一員として、特に医療現場で必要な薬物の知識と技術能を養うことを目的とする。
科目概要	わが国は高齢化社会を迎え、高血圧、心疾患他の循環器系疾患、生活習慣病患者が増加し、患者は多種類の薬を服用している。それら患者が歯科受診するケースも増え、多種類の薬が歯科治療に影響する薬の相互作用の知識を深める。
到達目標	薬理学を通して基礎と臨床の接点を理解し、歯科治療に利用される薬物だけではなく、全身疾患への治療薬の知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学　第2版	事前事後学習とその内容	授業毎に、その内容の理解度を評価する小テストを実施する。
参考図書			
特記事項	授業はPowerPointならびに板書で説明する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	薬物と薬理作用様式	講義	薬物の定義と薬物療法及び作用形式、用量反応関係について。
2	薬物の適用と生体への影響	講義	薬物動態、適用方法及び薬物作用に影響する因子について。
3	薬物の取り扱いと薬物関連法規	講義	医薬品の分類と取り扱い、薬物の分類・表示・保管方法。医薬医療機器法における医薬品、医薬部外品等について。
4	中枢神経系に作用する薬	講義	中枢神経系に関連する薬物について。
5	末梢神経系に作用する薬	講義	末梢神経系の制御機構と末梢神経系に作用する薬物について。
6	局所麻酔薬	講義	局所麻酔薬の作用機序および構造・分類について。
7	消化器系及び血液に関連する薬	講義	消化器系に関連する薬物について。血液凝固メカニズムと血液凝固薬及び血液に関連する薬物について。
8	中間テスト及び解説		筆記試験
9	呼吸器系・循環器系に関連する薬	講義	循環器系の代表的疾患及び循環系疾患薬とその作用機構について。 呼吸器系疾患とその治療薬について。
10	抗炎症に関連する薬	講義	炎症のメカニズム及び抗炎症薬について。
11	感染症に関連する薬	講義	病原微生物の特性、抗感染症薬の作用機序と副作用について。
12	消毒薬	講義	消毒薬抗菌スペクトル別に分類、ならびに消毒薬の特性と利用法について。
13	内分泌系およびビタミン関連薬	講義	内分泌性疾患のホルモン薬治療について。ビタミン剤の種類と特性について。
14	口腔疾患に関連する薬	講義	ウ蝕予防のフッ化物製剤と口腔関連治療薬について。
15	定期試験		筆記試験

科目名	微生物学・口腔微生物学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	杉森　賢司
		授業形態	講義		有		
（英）	Microbiology/Oral Microbiology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	前半：火曜日/1・2限：対面 後半：火曜日/2限：対面、金曜日/1限：対面

講師紹介	北里大学にて微生物学を学ぶ。研究室では主に麻疹ウイルスや亜急性硬化性全脳炎（SSPE）に関する研究を行なった。卒業後、日本歯科大学細菌学教室に助手として勤務し，口腔トレポネーマや放線菌の免疫学的研究を行うなど、豊富な実務経験を有する。東邦大学医学部に移籍後、約40年間温泉をフィールドとし、「特殊な環境に生息する微生物」に関する研究を行ってきた。その事が評価され，環境大臣表彰をいただいた。
目的	医学・歯学の領域で働く者にとって，微生物学は必要不可欠な知識として習得しなくてはならない。一方，ヒトは生きていく上で微生物と深い関わりがあり，日常生活においても常識的に正しい微生物の知識を得ることは重要であるが，特に歯科衛生士としての業務上，微生物の特性，免疫学的知識，感染予防等の知識は重要である。また，齲蝕や歯周病予防を目的とした口腔ケアを行う際の重要な知識を得るための学問である。
科目概要	微生物学の基礎，感染症の成り立ち，口腔微生物と疾患について学び，関連性のある免疫学，化学療法学，口腔ケアの必要性についても学習する。
到達目標	主に口腔微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、広く微生物に関する基礎知識や微生物が関与する全身疾患と病態を解説することができる。また、微生物感染症に伴う生体防御機構や薬剤の効果等についても説明ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2　微生物学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	予習としてすることは「どのような内容の講義を受講するか」の概要を知る。本教科は微生物の学名や特殊な専門用語を多数学習しなくてはならない科目なので、授業終了後，授業内容をしっかりと復習する。大切な用語はしっかりと習得する。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	微生物学・口腔微生物学概論	講義	・微生物学の歴史と微生物に関する基本的な内容を知る。 ・微生物感染と感染症に関する基礎を知る。
2	真核生物と原核生物（細菌）の構造 微生物の分類と細胞内の構造と代謝	講義	・真核生物と原核生物の構造の違いを理解する。 ・微生物を分類（原虫，真菌，細菌，マイコプラズマ，リケッチア，クラミジア，ウイルス）　する ・細菌の代謝と増殖について知る。
3	細菌の病原因子 微生物学各論（細菌学その1）	講義	・細菌の病因因子について知る。 ・病原性がある細菌（グラム陽性球菌とグラム陽性桿菌）について知る。
4	微生物学各論（細菌学その2，マイコプラズマ）	講義	・病原性がある細菌（グラム陰性球菌とグラム陰性桿菌）について知る。 ・マイコプラズマについて知る。
5	微生物各論1 （リケッチア，クラミジア，ウイルス ）	講義	・リケッチア，クラミジアについて知る。 ・ウイルスの性状，構造，増殖について知る。・ ・歯科領域に関連したウイルス感染症（ヘルペス，ピコルナ，パラミクソ，風疹）について知る。
6	微生物各論2（ウイルス ，真菌 他、プリオン） 免疫学概論	講義	・歯科領域に関連したウイルス感染症（インフルエンザ，レトロ，肝炎）について知る。 ・病原性真菌，原虫，プリオン について知る。 ・免疫機構（宿主防衛機能，免疫学の基本）を知る。
7	免疫学　1	講義	・免疫の種類（自然免疫と獲得免疫、体液性免疫と細胞性免疫、粘膜免疫）について知る。 ・免疫担当細胞について知る。 ・抗原と抗体について知る。
8	中間テスト		
9	免疫学　2	講義	・抗原抗体反応について知る。 ・細胞性免疫と液性免疫について知る。 ・アレルギーの分類（I型，II型，Ⅲ型，Ⅳ型）について知る。
10	口腔微生物　1	講義	・口腔細菌叢について知る。 ・デンタルプラークの形成機序、微生物叢の変化について知る。
11	口腔微生物　2	講義	・口腔感染症（齲蝕と歯周病）の発生機序とその原因菌について知る。
12	口腔微生物　3 化学療法	講義	・その他重要な口腔感染症について知る。 ・化学療法と化学療法剤の作用機構について知る。
13	院内感染 滅菌と消毒	講義	・院内感染機構とその対策について知る。 ・滅菌と消毒の違いとその方法を知る。
14	細菌の培養および微生物の観察法 微生物学・口腔微生物学のまとめ	講義	・細菌の培養法と観察の方法について知る。 ・歯科衛生士として知るべき微生物の知識を総括する。
15	定期試験		筆記試験

科目名	口腔衛生学Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	角田　衣理加
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Hygiene Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日/1限：対面、2限：オンライン ※8週目以降すべて対面

講師紹介	歯科大学教員として、長年、衛生学・口腔衛生学・口腔微生物学の学生教育に携わるだけでなく、歯科疾患実態調査精密調査委員や世界保健機関(WHO)ジュネーブ本部コンサルタントの経験を持つ。歯科医師としては、大学附属病院では予防歯科や口臭外来、地域歯科を主軸とする診療所では一般歯科診療および歯科訪問診療といった豊富な実務経験を有する。 資格：日本口腔衛生学会　歯科公衆衛生専門医・指導医
目的	歯科衛生士は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的として定められた国家資格であり，口腔衛生学はその基盤となる知識の根幹を担う学問の1つである。そのため、基礎から臨床領域と多岐にわたる内容を熟知・修得することを目的とする。
科目概要	口腔衛生学の全体像を理解するために、歯の発生から口腔清掃などの知識を習得する。
到達目標	歯科衛生士は、歯・口腔の健康を通じて、保健と福祉に寄与する使命を持つ。口腔衛生学を修得する中で、歯科疾患の予防に真摯に向き合う姿勢を育む。具体的には歯の付着物、特にプラークの形成過程を理解することにより、口腔清掃の意義を理解し、口腔清掃について学び、歯磨剤・洗口剤の組成を理解する。さらに、う蝕と歯周疾患をはじめとする様々な疾患・異常の発生要因・予防法の実際を学び、理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	最新衛生士教本　保健生態学	事前事後学習とその内容	事後学習として、講義の最後に実施する小テストを用いて復習し、講義で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料、個人識別可能な画像があるため、写真撮影を不可とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	歯・口腔の健康 歯・口腔の機能 歯・口腔の発生と成長・発育・機能
2	歯・口腔の付着物・沈着物	講義	ペリクル・プラーク マテリアアルバ・歯石・舌苔 外来性色素沈着物
3	歯科疾患の疫学	講義	う蝕の疫学 歯周病の疫学 歯の喪失・その他の疫学
4	口腔清掃1	講義	口腔清掃の意義 口腔清掃法 機械的清掃法と用具
5	口腔清掃2	講義	不適切な口腔清掃による為害作用 歯磨剤と洗口液
6	う蝕の予防1	講義	う蝕発生と進行のメカニズム う蝕の分類と症状 う蝕の発生要因
7	う蝕の予防2	講義	う蝕活動性試験 う蝕の予防方法
8	中間テスト		筆記試験（前半講義内容より出題） 中間テスト解説
9	フッ化物によるう蝕予防1	講義	わが国のフッ化物応用 フッ化物の一般性状と用語 フッ化物の摂取基準と代謝・毒性
10	フッ化物によるう蝕予防2	講義	フッ化物応用によるう蝕予防方法 フッ化物のう蝕予防メカニズム
11	歯周疾患の予防1	講義	歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序
12	歯周疾患の予防2	講義	歯周疾患の全身に与える影響 歯周疾患の予防手段と処置
13	その他の疾患・異常の予防1	講義	不正咬合の予防 口臭の予防
14	その他の疾患・異常の予防2	講義	その他の歯科疾患・異常の予防
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲より出題）

科目名	歯科予防処置論Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures TheoryⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1、2限目：対面

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスケーリング/歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬の知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	シックルスケーラー　マネキン実習　6	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部口蓋側　　上顎左側臼歯部頬側
3・4	シックルスケーラー　マネキン実習　7 歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬　講義	演習	シックルタイプスケーラー操作総復習 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる
5・6	歯面研磨、口腔内洗浄　実習	演習	歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる 歯面清掃・歯面研磨を実践できる
7・8	中間テスト キュレットタイプスケーラー　講義	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する
9・10	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　1	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎前歯部（唇側・舌側）　・上顎前歯部（唇側・口蓋側）
11・12	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　2	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎臼歯部
13・14	キュレットタイプスケーラー マネキン実習　3	演習	キュレットタイプスケーラーの種類、形状、特徴を理解する 上顎臼歯部
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科予防処置論Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅳ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1、2限目：対面

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。 口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスケーリング/歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬の知識と技術を身につける。
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	実習で使用する教材の忘れ物、実習時の身だしなみ不備で授業に参加ができない場合は見学となるため、事前にコマシラバスを確認し、忘れ物などの準備不足がないようにすること
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	パワースケーラー・歯面清掃器	演習	超音波スケーラー、エアスケーラー、歯面清掃器の使用目的や特徴、使用時の留意点 準備・後片付けの方法
3・4	相互実習　講義	演習	標準予防策、感染防止の3原則 相互実習における感染基本対策、ルール、実習当番の役割 臨床現場における感染対策の重要性
5・6	相互実習　講義	演習	口腔内観察の項目 健康な歯肉の状態、異常 歯周検査やPCRなどの記録
7・8	中間テスト 相互実習に向けたグループワーク	演習	筆記試験 相互実習における役割理解のためのグループワーク
9・10	相互実習　口腔内観察　エキスプローラー	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
11・12	相互実習　プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
13・14	相互実習　プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エキスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	ディーン宮仁子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory TrainingⅡ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限：対面、2限：オンライン

講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を持つ。
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う。
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得。
到達目標	歯科保健指導（口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術）を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 （歯科衛生士教本）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入①	演習	妊産婦期の口腔健康管理
2	食生活の指導①	演習	食品とう蝕誘発性
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入②	演習	乳児期～幼児期の口腔の特徴と口腔衛生管理
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入③	演習	乳児期の口腔機能と食生活指導
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入④ 口腔機能に関わる指導①	演習	幼児期の口腔機能と食生活指導　口腔機能の発達に関する指導
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤	演習	学齢期の口腔健康管理
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥	演習	青年期の口腔健康管理
8	中間テスト		1～7回の内容から出題
9	食生活の指導② ストレスマネジメント	演習	歯周病と食生活　酸蝕症と食生活　食生活と咀嚼　ストレスの対応法
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦	演習	成人期の口腔衛生管理
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑧ 生活習慣の指導①	演習	成人期の食生活指導　非感染性疾患
12	生活習慣の指導②	演習	喫煙者に対する指導
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑨ 口腔機能に関わる指導②	演習	老年期の口腔健康管理　口腔機能低下に関する指導
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	老年期の食生活指導
15	定期試験		1～14回の内容から出題

科目名	歯科診療補助論　Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅲ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1・2限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	共同動作①(マネキン)	演習	・共同動作の概念について ・ポジショニングについて ・バキューム、ライティングの基本動作を習得する
3・4	共同動作②(マネキン)	演習	・フォーハンドシステムの基本動作を習得する ・一連の基本動作を行いながら精密印象採得を実施する
5・6	仮封材	演習	・仮封材の特徴、種類、用途について ・仮封材の取り扱い方法について ・各部位に応じた仮封方法を習得する
7・8	中間テスト 仮封材実技試験	演習	・筆記試験 ・指定された仮封材を適切に仮封ことが出来る
9・10	共同動作③(相互実習)	演習	・相互実習における心構えについて ・実習室の使用方法について ・相互実習において共同動作を実施する
11・12	スタディーモデル作製①(相互実習)	演習	・共同動作のもと、下顎の概形印象採得を実施する
13・14	スタディーモデル作製②(相互実習)	演習	・共同動作のもと、上顎の概形印象採得を実施する
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	多賀谷　絵美
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅳ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	集中講義

講師紹介	2000年歯科衛生士免許取得、歯科医院勤務の傍ら障害者・児診療に従事するなど豊富な実務経験を有する。。2006年より専任教員として勤務。 2013年より総合病院にて歯科口腔外科の立ち上げ、病棟での重症患者の口腔ケアに従事。2022年より本校専任教員として勤務。
目的	臨地臨床実習に臨むにあたり必要な、技術・知識の習熟及び記録化を学び、臨床現場での応用的学習の基礎を身に付ける。
科目概要	相互実習を通じて歯科診療の流れ、対象者に応じた対応法を身に着ける
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	共同動作①	演習	・相互実習において共同動作を実施する ・配慮の必要な患者について
2	共同動作②	演習	・相互実習において共同動作を実施する ・配慮の必要な患者について
3	歯科材料の取り扱い(セメント練和)	演習	・各種セメント練和の知識の復習 ・各種セメント練和の技術復習
4	歯科材料の取り扱い(セメント練和)	演習	・各種セメント練和の知識の復習 ・各種セメント練和の技術復習
5	歯科材料の取り扱い(印象材と模型材)	演習	・各種印象材の知識の復習 ・各種印象材の技術復習
6	歯科材料の取り扱い(印象材と模型材)	演習	・各種印象材の知識の復習 ・各種印象材の技術復習
7	臨床実習概要・実習内容の記録化	演習	・う蝕の進行度と処置法について ・臨床実習における見学、メモの取り方について ・実習日誌・レポートの記入方法について
8	定期試験		筆記試験(1年次歯科診療補助論の全範囲から出題)

科目名	歯科臨床概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	砂川　光宏
		授業形態	講義		有		
（英）	Outline of Clinical Dentistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	木曜日/1限：オンライン、2限：対面

講師紹介	歯科医師として1974～2014年の40年間、東京医科歯科大学で教育・研究・臨床・運営に携わり、歯科衛生士教育を含む豊富な実務経験を有する。 2015年より日本医歯薬専門学校/東京医薬看護専門学校の学校長を務める。
目的	歯科臨床系各分野の診療内容と診療の流れを理解する。
科目概要	歯科臨床の全体像、および歯科臨床における歯科衛生士の役割を総合的に理解するためのオリエンテーション。
到達目標	歯科衛生士として必ず知っておくべき歯科臨床に関する基本的知識を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論, 医歯薬出版.	事前事後学習とその内容	各回の授業において、自習問題(10問)をTEAMS上にアップロードするので、授業中に実施した小テスト問題(10問)とともに事後学習に役立て、知識の定着をはかること。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療と歯科診療所	講義	歯科診療とは、歯科診療所、歯科診療所における業務
2	ライフステージと歯科診療 診査・検査・前処置	講義	各ライフステージにおける歯科の役割 患者さんの受付から診療終了までの流れ バイタルサインの確認、口腔内の観察・検査、画像検査、痛みのコントロール
3	小児歯科 歯科矯正	講義	小児歯科とは、口腔の先天異常、口腔機能の発達、う蝕予防処置 歯科矯正とは、不正咬合と矯正歯科治療、矯正歯科治療の概要
4	口腔外科	講義	口腔外科とは、外傷の治療、抜歯、口腔粘膜疾患の処置
5	歯科保存 歯周治療（1）	講義	歯科保存とは、象牙質知覚過敏症、歯冠部う蝕、根面う蝕、歯内療法、歯のﾎﾜｲﾄﾆﾝｸﾞ 歯周治療とは、歯周病と全身疾患
6	歯周治療（2） 歯科補綴	講義	歯周基本治療、歯周外科治療、メインテナンス 歯科補綴とは、クラウン・ブリッジ、有床義歯、インプラント
7	障害者歯科 高齢者歯科	講義	障害者歯科とは、高齢者歯科とは 摂食嚥下障害への対応、全身疾患への対応、周術期の対応、歯科訪問診療
8	定期試験		筆記試験（多肢選択形式の問題を出題）

科目名	栄養指導	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	有川　量崇
		授業形態	講義		有		
（英）	nutrition　education	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	火曜日/1限：オンライン、2限：対面

講師紹介	歯科医師，博士（歯学）として，大学にて豊富な実務経験を有する。現在、日本大学松戸歯学部衛生学講座に所属し，講義，研究に携わっている。また，女子栄養大学栄養科学研究所客員教授としても研究に携わっている。講義は，3名（有川量崇，鈴木陽香，長島輝明）で行う。鈴木は，歯科衛生士資格であり，長島は歯科医師として日本大学松戸歯学部に所属し，講義，研究に携わっている。
目的	生命科学領域に関わる基本的知識を修得した上で、口腔が身体の一器官という認識の上に立ち、医学的見地から歯科衛生士として必要な栄養の知識を身につけ，保健指導での実践に用いる。
科目概要	栄養生化学で得た知識や考え方を基に，臨床での栄養指導への応用を学ぶ。
到達目標	栄養学に関する正しい知識を学び、身につける。食生活と健康について理解し、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学　医歯薬出版株式会社	事前事後学習とその内容	事前学習においては、当該予定の教科書を読むこと。事後学習では、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	人体の構造と機能3　栄養　医歯薬出版株式会社		
特記事項	講義および提示資料について写真撮影及び録音録画はその必要のある時に許可を得るようにしていただきたい。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	栄養素の働きⅣ	講義	1. ビタミンの栄養的意味 ①ビタミンの種類 ②ビタミンの働き
2	栄養素の働きⅤ	講義	1. ミネラルの栄養的意味 ①ミネラルの種類 ②ミネラルの働き
3	栄養素の働きⅥ	講義	1. 水の栄養学的意味 2. 食物繊維の栄養的意味
4	食べ物と健康	講義	1. 食品成分表 2. 食事バランスガイド 3. 食べ物の物性
5	食生活と健康Ⅰ　成長期における栄養	講義	1. 成長期における栄養 ①乳児期　②学童期　③思春期
6	食生活と健康Ⅱ　成人期における栄養	講義	1. 成人期（妊娠期含む）における栄養
7	食生活と健康Ⅲ　高齢期における栄養	講義	1. 高齢期における栄養
8	定期試験		MCQ・筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	臨地・臨床実習Ⅰ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	菅野　由香梨
		授業形態	臨地実習		有		
（英）	Clinical　Training　Ⅰ	時間数	135	授業回数		開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	3			曜日/時間	月～金

講師紹介	福島県と神奈川県の歯科医院にて一人ひとりに合わせた予防処置を実践することで地域の人々の口腔の健康に寄与し、豊富な実務経験を有する。
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに追う舌コミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	主として見学を中心とした実習とし、臨床現場における歯科診療の流れを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に臨むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			